

## 令和5年度 第4回 諫早市社会教育委員会議 議事録

日 時： 令和6年3月22日（金） 15：30～17：00

場 所： 諫早図書館 視聴覚ホール

### 出席者：【社会教育委員】

平山仁委員、西山敏明委員、石丸民世委員、日野涼子委員、西川亨委員  
菅原良子委員

※欠席委員：池田雅英委員、松山綾委員、高戸幸恵委員

### 【事務局】

石部邦昭（教育長）、竹島健吾（生涯学習課長）、佐藤亨（同課長補佐）  
山下美喜夫（同参事補・指導主事）、麻生春奈（同主任）

- 議 題：（1）今期社会教育委員会議のテーマの検討  
（2）令和6年度の年間計画について  
（3）その他

（議長）

はじめに本日の議事録署名人を指名したいと思います。

—日野委員を指名、了承—

（議長）

まず、最初の議題1「今期社会教育委員会議のテーマの検討」でございます。

前回から引き続きの議題となりますが、前は私達の様々な現状を含めて、社会教育のあり方について皆様が考えておられることを出していたところでした。

そこでまず、前回の会議内容のまとめを事務局の方から説明をお願いします。

（生涯学習課長補佐）

— 資料に基づき説明 —

(議長)

ただ今事務局からの説明のように、前回の会議では皆様から社会教育に関する様々な課題について話しを出していただきました。

今回は事前に皆様に差し上げた通知の中で、「地域が人を育み、人が地域を育むシステムづくり」について少し考えをまとめておいていただきたいということでお願いしていたところでございます。しかし、こう言われたときに何を話すのか、ちょっと困ったところもあったかと思えます。

前回は皆様の身近なところで、地域の課題についてのたくさんの意見を出していただきましたし、また子ども会や婦人会からも様々なご意見を出していただいたところで、今回の「地域が人を育み、人が地域を育む」という点に繋がっていると思えます。

それを踏まえて皆様が準備していただいたご意見を伺っていききたいと思います。

(委員)

それぞれの団体の課題でもあると思うのですが、子ども会ではお世話をする方が高齢化している点と、子ども達がどんどん成長していく上で、お母さんたちの入れ替わりも激しく、例えば3人のお子さんがある母親だったら、子供会に10年ぐらい長期で関わってくれるのですが、どんどん入れ替わっていくので何とか繋ぎ合わせていくために、地域の健全育成会や自治会など色んな団体に相談をしたりして、何とか繋ぎ止めているところなんです。ですから、子ども達が中学生や高校生になってもジュニアリーダーという形で子ども会との繋がりを持ち続けて欲しいと思うんです。保護者に関しても子どもが卒業したら終わりというのではなく、例えば卒業と同時に健全育成会に移行するみたいな、そんなシステムづくりが必要ではないかと思えます。子ども会では現状、そういった仕組みにはなっていないので、日頃からお世話になっている健全育成会や老人会などと一本の軸というか、スクラムを組んで世代を超えて人と人を繋げてくれるキーパーソンみたいな人材が出てきて欲しいと思っております。

今ありがたいことに高校生が子ども会に興味を持ってくれていて、先日も新役員研修会や地域の活動を見学に来てくれて、子ども達たちと触れ合う機会を作ったり、学校での授業の一環としてその取り組みを発表しているなど、そういうところがとてもありがたく、ぜひ続けていって欲しいと思っています。

(議長)

今ご意見をいただいたように、子ども会では中学生・高校生のジュニアリーダーという地域のキーパーソンになるような人材が育ってきていて、これらをどう繋いでいくか、そして地域の様々な団体がどのようにうまく繋がっていくべきか話を出していただきました。地域のいくつかの団体が繋がることでうまくいっている例、あるいは逆に団体はあるけど、繋がってくために課題を感じていることがありましたらご意見をいただきたいと思います。

婦人会はこのような現状をいろいろとご存知だと思いますがいかがでしょうか。

(委員)

本日の会議に先立ち、私達婦人会で話し合ってきたことを報告させていただきます。

団体が必要に応じてお互い気軽に助け合えるためには、縦横の連絡がスムーズに取れることが重要ではないでしょうか。例を挙げますと、婦人会は子育て支援、奨学資金制度などのボランティアを行っています。

そこで保護者の方々には、私たちの子育て支援活動を理解して欲しいのです。さらに興味を示していただければ、将来、何年か先に高齢化による会員減少という課題が少しでも改善できるのではないかという希望を持っています。

ボランティアに携わる人の数を増やし、地域貢献活動を続けていくためには、いろいろな職種の人が世代を超えて意見を出し合える場が必要です。行政・地域・人生の先輩、子育て中の若い方々が集って学び合える場で次期リーダーを育てていける、そのような場が多くあることが重要ではないかと思います。

以上簡単ですが、婦人会で話し合ったことのご報告です。

(議長)

ありがとうございました。

婦人会の活動の中でも、子どもを持つ母親のグループとの繋がりは、今後重要になってくるようですね。

(委員)

私達の社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、健全育成会の活動の殆どは小学校との関わりです。

小学校からいろんな協力依頼があれば、健全育成会に回ってきたり、民生委員児童委員協議会や社会福祉協議会に回ってきたりしていますが、本年度は中学校との関わりにも力を入れていきたいと思っています。

西諫早中学校駅伝の部の男女は2年連続全国大会に出場しました。中学校前にある第2公園が西諫早ニュータウンと共にできておりますので、50年近く経っていると思いますが、そのウォーキングコースで子ども達が走って練習をしているんです。50年も経つと土は削れてしまい、下からの石が浮いてきて、これで捻挫しているという話を聞きましたので、真津山小と西諫早小の健全育成会で、市役所の担当部署にお願いして、土を持ってきていただいて、その両方の健全育成会と陸上部の選手とその保護者で協力して土を運び、綺麗に整地しました。綺麗になったところで子ども達に走らせてみたら、これだったら安心というようなところまで整えることができました。このような連携の仕方をもう少し他の団体にも広げていきたいと思っています。

今、民生児童委員協議会でも西諫早中学校の3年生の生徒に12月に合格祈願餅つきといいまして、約90キロの餅米を蒸して、搗いて食べるまで自分達でさせておりますけれども、このような地域との関わりは、特徴のある面白いことだと思っておりますので、他の団体にも話をもちかけていろんな関わりを作って行けたらと思います。

また、民生委員児童委員協議会では、中学校の生徒会の会長・副会長・部長と、話をしながら給食を食べるという給食会議という活動も過去に行っていました。お互い和気あいあいと話をしたこともありましたので、そのような活動の復活も今後は企画してみたいと思っています。

(議長)

今話していただいたのは、小学校や中学校がきっかけとなってはいますが、中心になって動いているというわけではなく、そこにいろんな団体に関わることで、お互いが繋がって連携していったという、地域と学校が協働した活動の良い事例であると思います。

ほかの地域や団体の中でも、このような事例があると思いますがいかがでしょうか。

(委員)

本年度の小野中学校の地域との関わりで言えば、いろんな行事が4年ぶりに復活した子ども会主催の行事で「チャレンジ小野っ子」といいます。メインは小学生で多くの子供達を招いてイベントをするという活動であり、一緒に中学生の企画イベントもありました。

これは以前あったものを4年ぶりに復活させたもので、生徒会が企画して準備したんですが、生徒会の方も非常にやる気を出して行いました。

また、学校運営協議会という会議の中で、婦人会の代表の方から中学校の行事に併せてちょっとした地域のステージ発表や、展示発表などを一緒にしていただければ自分達も嬉しいし、地域の方も公民館ではやってはいるけれども、学校の体育館とかですと、地域の方もお孫さんとかいらっしゃれば集まりやすいだろうし、何か活性化して元気になるのではないかとのご意見をいただいたことがありました。

実は今日、先ほどまで企画委員会といたしまして、代表主任の先生方とその議論してきたところですが、私の方からこの話をいたしまして、中学生も地域に貢献することができるし、地域の方は中学生の姿を見て元気をもらうこともできるんじゃないかと提案してきたところです。そういった考えを校長としての立場で教職員にも地域の思いを伝えていこうとしているところです。

それと、令和6年度はもう目の前ではあるのですが、できれば活動の計画は前年度に地域の方々と一緒に協議をするという場を持つ必要があると思います。ただし年度末となると新年度に向けて学校もいろんな年間行事とか、総合的な学習の時間とか、ある程度決めていく必要がありますので、やるならば1年後2年後ぐらい先を見越しながら、また地域の方々のご意見を聞きながら、少しずつ早めに進めていけたらいいのではないかと考えています。

(議長)

地域の子供達の活動の様子や、それに学生が関わって参加しているところから、学校と地域の協働、あるいはその連携しているといった観点からいかがでしょうか。

(委員)

先日、私の学生が企画した行事の話をさせていただければと思うのですが、これがトトロの森という企画でした。4年ぶりに市内のいくつかの地域で通学合宿が今年度復活したと思うんですけど、それに参加した学生の一人が参加した子供達とその保

護者に呼びかけて交流会を開きたいとを言ってきまして、いろんなリスクを考えながら開催すべきか悩んでいたんですが、学生本人はここにいらっしゃる委員や、指導主事、こどもの城の職員などのいろんな人の協力を受けながら、その学生と通学合宿に参加した他の学生も参加しながら、11組の子どもと保護者が集まって国立諫早青少年自然の家で行い、無事企画を終えることができました。

この企画を通して私が感じたのは、地域が人を育むことはもちろん、人が地域を育むときに大事なことはいろんな人と人との繋がりだなと思いました。この企画はいろんな方の協力があったからこそできたことなんですけど、健全育成会の方もそうですし、通学合宿の実行委員長の方には一緒に小学校まで行っていただいて、通学合宿に参加した小学生にその企画のチラシを配ってもらったりしました。

このように、いろんな人との繋がりの中でこの企画を成功させたというのがあって、やはり地域を育むときは一人ではできるものではなく、いろんな人の繋がりの中でやっていけるということをすごく実感しました。

先ほどからここにいらっしゃる委員の皆様の意見を聞いていても、それぞれの団体が、がんばって活動はしているんですが、なかなか新しい若い人が入ってこないために、人手が足りないという状況があるのかなと思いますし、地域でがんばっている人達同士を繋げたり、広げていくというきっかけが必要だと思います。

昔から学校には、いろんな人が集まりやすく関わりやすいという核になる部分があったと思います。ですから、その令和版ではないですけど、学校を核にした地域の集える場をつくっていき、そこからいろんな団体や多世代に広げていく仕組みづくりができていけばいいのかなと思っています。

(議長)

はい、ありがとうございました。

今お話しがあったイベントには他の委員も参加されたと思いますが、いかがでしたか。

(委員)

学生達が通学合宿に参加したのは4年ぶりでしたので、やはり全部の学生が初めてのことだったんです。子ども達もほとんど4年生以上の参加で実施していますので、子ども達も参加したことがある児童はいませんでした。

3泊から5泊で実施したんですけれども、最終日の閉講式には、どの地域でも子ども達が涙を流し、大学生も涙流すという場面が見られました。これだけの期間、お互いが寝食を共にしますので、絆が深まる素晴らしい行事だなと思っています。

そこで今回、1人の学生が立ち上がって、それに加わった卒業生が4人いたと思いますが、本当にいい具合に学生ボランティアが繋がっていたと思います。

やはりこういった企画を立ち上げる学生も偉いし、賛同してくれる保護者も、自分の子どもを参加させますと言っていただきましたので、ぜひ2年、3年と続けていきたいと思っています。しかし、そうは言っても一つの行事をやるには資金が掛かりますので、そこのところは今後の課題ではないかなと思っています。

それともう一つ付け加えますが、これまで各地域の通学合宿では、自然の家から安価で布団を借りてボランティアの学生や参加児童が利用していたんです。しかし自然の家から、本年度からは通学合宿にはもう布団を貸し出さないという話が出ているようなんです。ですから我々の力ではどうすることもできませんので、行政の方で自然の家の職員と話をさせていただいて、引き続き布団の貸し出しについて協力していただけるよう働きかけていただければと思います。よろしくをお願いします。

(委員)

私も自然の家と接触する機会がありましたが、布団の貸し出しはもうできないと直接聞きました。

(議長)

全国にある自然の家も国からの補助金が億単位で減らされていますから、厳しい状況にあるということだと思います。その状況は今後見守っていくこととして、先ほどの話に戻したいと思います。

先ほど話があったのが、人が集まりやすい学校を拠点にしていくという意見ですが、学校を中心として人と人を繋ぐということであって、学校に何でもさせるという意味に取り違えないよう気を付けて話を進めたいと思います。

先ほどの通学合宿の例でいうと、関係する団体同士が集まって勉強会をしたり、昔でいうと、子育てネットワークなどのような形で一つの仕組み作りがあるのではないかとこのところだと思います。

これまでは、どちらかという地域が人を育むという観点から話をしていましたが、また逆に人が地域を育んでいくという考えもあるように思います。

このようにちょっと違う観点からでも結構です。いかがでしょうか。

(委員)

学校を中心にして繋がる地域社会になっていけば本当に素晴らしいなと思います。

子ども会において出た意見の一つとしては、やっぱり子育て世代は学費といいますが、子どもを育てるための費用が掛かるので、本来だったら子どもとの触れ合いを生み出したいと思っているんですが、仕事はしなければいけません。パートの仕事を減らしたり、休んだりすると収入が減ってしまうところがあるので、市に決めていただいた給食費の無償化もありがたいですし、何かそういうちょっとした負担軽減といえますか、ボランティアに行ったら、何か特典があるみたいな仕組みがあったらいいなって考える方もいらっしゃいました。

本当に学ぶのが好きな大学生や高校生に援助をする仕組みづくりも必要です。勉強ばかりではなく、交流によってお互いが繋がりを共有していけるとと思います。

(議長)

子ども達も活動に参加することで、何か見える形でメリットを感じることができれば、もっと子ども達も変わっていくんじゃないかというところですね。

最近、高校生による地域での学習発表が新聞に掲載されていましたが、教育長、この件について何かご意見がありましたらお願いします。

(教育長)

高校も大分変わってきています。特に県立学校や、市立小中学校というのは地域に密着した存在ではあるんですけど、県立高校というのは、今までは地域とはちょっと距離を置いていたと思うんです。しかし、体験学習も含めて今はいろんな面で高校生が地域の中に入っていています。ですから、高校も変わってきたなと思っていて非常に期待をしているんですけど、やはりこれからは、小・中学校、それに高校も加わった取り組みというのにも必要になってくると思います。これまで高校というのはそういうことが意識されてこなかったのではないかと思います、高校も一緒に地域でい

ろんな取り組みをしていくと、また違った面が出てくるのではないかと考えています。

(議長)

はい、ありがとうございました。

新聞記事では、具体的な教育の成果までは掲載されていなかったのですが、私もよくわからないんですが、小学校、中学校が地域の繋がり場となっていて、これにもしかしたら高校も加わっていく可能性もあると思います。諫早もいくつかの公立高校がありますし、私立の高校を含めるとさらに多くの関わりができるのかもしれない。

そうすると今度は、就学前の子育て世代も地域の繋がりサイクルの中に入っていくのではないかと関心があるところです。この点についてはいかがでしょうか。

(委員)

就学前のお子さんたちが集まるような施設が諫早市内にはたくさんあると思います。すくすく広場や、こどもの城もそうですし、保育園や幼稚園も含めるとかなりの施設がありますので、そういったところを巻き込んでいければいいのかなと思います。

(議長)

先ほどまでお話にいただいた学校を中心とした様々な人と人の繋がり可能性や、その中に子育て中の若い世代が加わることで、さらに展開する力になるのかなと思います。小野地区や有喜地区など、地域の私達から見ても繋がっているんだなところもあれば、そうでもない地域もあるのかもしれないし、これから新しい形で繋がり生まれる地域も出てくるかもしれません。

先ほど通学合宿に関わった学生達が、実際にその経験をもとに一つのイベントができたというのがありました。周りの協力もあったからできたということでしたが、大人ではなかなかできないことだと思います。

最後にもう少しご意見を伺っていきたいと思います。

(委員)

人と人との繋がりや、学校と地域が繋がっていく意味においては、繋がりを大事にしていきたいとただそう思うだけでは中々うまくいかないのです、私は今年1年、いろんな地域の行事等に招かれた時に、できるだけ多く参加してきましたんですけれども、婦人会の企画でしめ縄作りに参加させてもらったときに、午前中から活動して、お昼には地域のお米で作ったおにぎりとお漬物を一緒にいただいて、そこで地域の方といろんな話がゆっくりできました。残念ながら学校から参加したのは私だけでしたので、できれば他の先生方にもこういった地域の方とゆっくり話す機会があるといいのではないかと思います。

そこで、1年間に1回ぐらいでもいいので、お互いの困りごとであるとか、ざっくばらんに話せる、そういう場を持つことができれば先生たちの考え方も、子ども達に教育をしていく上で少しずつ視野が広がっていくのではないかと考えています。

(委員)

婦人会には学校からもいろんな場に誘ってくださっていて、真津山地区の学校でいうと、郷土料理を子ども達に教えて欲しいので、婦人会に力を貸してくださいと依頼を受けたことがあります。マンモス校ですごく賑やかなんですが、子どもの数がとても多かったので2クラスずつ2時間に分けて、野菜の切り方とか調理の仕方を教えました。それがコロナ禍で何年か休んでいたんですけど、また今年から復活しまして、私達婦人会に依頼していただきました。

また健全育成祭りには、地域の高校生がいろんな演奏とかの協力をしてきています。ですから高校生も顔なじみが多いですし、地域の方々も子ども達の登下校の見守りを長年していただいています。民生委員さんたちもほとんどの地域の子ども達の顔を把握しているようです。

各地域の婦人会も各公民館で託児に参加しておりますので、親御さんとか、小さい子どもさんもみんな顔見知りみたいです。

(委員)

西諫早小学校区の学校と地域の関わりは、学校支援会議で年度初めにほとんど決まってしまう。地域子ども教室をいつするか、通学合宿をいつするか、全て年度初めの会議で決まってしまう。この会議では地域の人だけではなく、鎮西学院大学

の教授にもお願いして実行委員になっていただいております、また学生にも一人、支援会議のメンバーになっていただいております。

先ほど高校生の協力の話が出ましたが、私の地域でも鬼火炊きの行事のときに、燃えた残り屑を一輪車に載せて処分するのが、私達高齢者には体力的に無理な状況なので、鎮西学院の野球部の学生に協力をいただいています。今年で5年目になりますが、できれば先生にも本年度から一人、支援会議のメンバーとして参加していただいて、活動に対する意見や助言をしていただければ、もっと幅広い活動ができるのではないかと考えています。

(委員)

人と人との繋がりに関して言いますと、私達子ども会では、毎年県立諫早運動公園で子ども大会という行事をしているんですけども、そのときに来てくれる保護者と子ども達全部で150人程が参加するわけですが、大学生の学生さん達にも手伝っていただいて、子ども達の意味疎通のお手伝いをしていただき、子ども達も喜んでくれています。ですから、その楽しさが保護者や祖父母の大人達にも循環して回っていくような、そんな機会を多くの子供たちに体験させていきたいと思いました。

また、先ほどお話を伺ったように、いろんな地域で交流する機会もつくっていきたいと思っています。あまり休みが取れなくて思うように参加できないこともあります。なるべくいろんな関わりを持って、今後の活動にフィードバックしていきたいと思っています。

また、就学前の子ども達に関わる保育園や、すくすく広場等についても見学する機会がありましたら是非参加したいと思いますので、よろしくをお願いします。

(委員)

先ほどのお話を伺いながら、地域を含め団体同士がお互いの課題についてゆっくり話せる機会をつくっていくということは本当に必要だなと思います。

地域の中でもいろんな人や団体のことを知っている方はいると思いますが、そうではない方もいますので、先ほどの学校を核にした関わりについてはもちろんですけど、その地域ごとにいろんな組織の人がざっくばらんに話せるいろんな機会があったらいいのかなと思います。例えば、ある団体の活動に他の団体の人が参加するとか、

そういう繋がる輪を広げていくといいますか、人同士が繋がっていく輪を広げていくというやり方もいいのかなと思いました。

それともう一つは、地域の人同士が関わる機会、そこに参加する人はいるんですけど参加できない、又は繋がっていない人や家庭に対して、何らかの支援が必要ではないか。様々な家庭やいろんな世代があると思うんですが、その人たちに対してどうアプローチをしていくかという視点も大事なのではないかと思います。

(議長)

はい、ありがとうございます。

今私達が認識しているグループや団体など、私達が見える部分にだけスポットを当てればいいというものではないということですね。既存の団体やグループを繋ぐということは非常に大事なことです。

ちょっと話はそれますが、中学生とか高校生が乳幼児を抱くという体験をしたときに、命の重さや大切さを感じるとよく聞きますが、同じように子ども達と関わりを持った学生達の経験は、今後人と何か触れ合うような仕事をする際に必ず役に立つのではないかと思います。

今期のテーマを考えていく上で、先ほどもお話があったように実際に見学に行くことも予定したいと思っています。例えば通学合宿の様子を見に行ったり、婦人会の活動であるとか、すくすく広場を見学しに行くことで、また非常に議論が深まっていくのではないかと思います。

(議長)

時間の都合もありまして、本日の議題1については以上で終了いたします。

つづきまして、議題の2「令和6年度の年間計画について」ですが、これにつきまして事務局から説明をお願いします。

(生涯学習課長)

— 資料に基づき説明 —

- ・令和6年度諫早市教育施策について
- ・令和6年度生涯学習課の予算について
- ・関係機関の見学等について

(議長)

ありがとうございました。

只今、令和6年度生涯学習課の予算の説明の中で、社会教育団体に対する補助金の説明がありましたが、委員の中には該当する団体の方もいらっしゃるのではとも言いにくいところもあるかと思いますが、ご意見がありましたら伺いたいと思います。

(委員)

私達子供会も補助金をいただいているんですが、レクリエーションや自然体験、講習会など様々な活動をするんですけども、その中で防災という観点で少し子ども達に勉強させることができないかという模索をしているんです。そのためにもう少し予算を増やしていただけたら嬉しいなと思います。

(議長)

なかなか活動を広げていくことには悩んでいるところであると思いますが、防災教育というキーワードの活動についても頑張っていきたいということですので、9月ぐらいにある次年度予算を作成する時期には検討していただきたいということでお願いします。

(委員)

地域子ども教室に消耗品代として1万円が支給されているということですが、私の地域の子ども教室では、ゲートボールを教えているので、それで使っている器具を買ったり、また踊りも教えていて、子ども達に着物を作ったりしているので、そういった予算は全て地域の健全育成会や地区社協からの補助金で賄っています。それでも地域子ども教室に対する市からの補助金は1万円が限度ということなのでしょうか。

(生涯学習課長)

まず、この地域子ども教室は補助事業ではなく、地域のボランティアの方々の協力により実施している事業であり、活動で使う消耗品や指導員の保険料に関して予算化をしています。

今研究中ではありますが、地域子ども教室を広げていくためには、金銭面を含めた仕組みづくりを今後考えていかなければならないと思っていますが、令和6年度の予算は、これまでの形を引き継いだ予算となります。

(議長)

只今の地域子ども教室の件について説明がありましたが、あまりその仕組みについては浸透されていないのかもしれないので、いろんな所で説明はされているとは思いますが、さらに周知を図っていくことは必要であると思いますのでお願いします。

それでは、社会教育団体活動支援への補助金については、補助金の内容に防災という観点も含めて検討をお願いしますとい意見が一つありましたが、今回社会教育委員としては、この金額は妥当だということによろしいでしょうか。

— 全委員了承 —

(議長)

次にもう一点皆様に意見を求めたいのは、先ほど生涯学習課長から提案のあった社会教育関連施設の見学ですが、時期として10月を目途に予定するというのと、内容を子育て関連施設の見学という方向で、事務局に調整していただくことということによろしいでしょうか。

— 全委員了承 —

はい、ありがとうございます。

説明があった件については、ほかにご質問やご意見がなければ、次の議題に移りたいと思います。

(議長)

それでは議題の3「その他」についてですが、私の方から長崎県社会教育委員連絡協議会理事会の報告をさせていただきます。

— 資料に基づき報告 —

- ・長崎県社会教育委員連絡協議会顕彰候補者の承認
- ・令和5年度事業報告及び令和6年度事業計画

(議長)

最後になりますが、皆様から何かほかに意見や報告がありましたらお願いします。

(委員)

それでは私の方からお願いします。

私の地域では、西諫早小学校の5年生を対象に、25年余り田植えなどの農業体験を続けていたのですが、これまで地域の二人の方に中心となって指導していただいていたのですが、いずれも高齢になられまして、もう続けていけないということになりまして、後継者をもっと早く見つけておくべきだったと後悔しているところなんです。やはり農業を指導するのは専門家ではないとできないことですから、どうしたらいいのかと思案中ですけれども、ここにいる皆さんで何かいい知恵がありましたら後日でもかまいませんので教えていただくと助かります。

(議長)

各地域でも、子ども達への農業体験はこれまで盛んに取り組まれてきたと思いますが、コロナ禍もあったし、今お話があったように指導者の高齢化という問題もあるので、どこの地域でも難しくなっているところでもあります。この件については、改めて皆様方から発言いただいた委員にアドバイスしていただくとして、会議も終了の時間となってまいりましたので、ここで本日の議事を全て終了したいと思います。

なお、今回の皆様からいただいたご意見については、事務局と私と一緒に整理し、皆様方に改めて報告してまいりたいと思います。

どうもありがとうございました。

— 以上終了 —